

ナメクジ類の防除は、施設アスパラガスでは梅雨期（6月～7月）、施設イチゴでは秋（10月）の防除が有効

ナメクジ類の防除は、施設栽培アスパラガスでは梅雨時（立茎後の夏芽収穫期）に2週間間隔の連続防除で被害が減少する。イチゴの施設栽培では、定植後に10月の1回防除で収穫期の被害が防止できる。

成果の内容

- 1 トラップを用いたナメクジの発生調査結果
 - (1) プラスチック容器（直径9 cm×高さ5 cm）と五寸釘（長さ15 cm）を用いたナメクジのトラップを開発した（図1、図2）。
 - (2) 施設栽培アスパラガスで発生するナメクジ類は、小型で黒紫色のノハラナメクジと淡褐色で背面に2～3本線のあるチャコウラナメクジであった。イチゴではチャコウラナメクジが主体であった（図3、図4）。
 - (3) 施設栽培アスパラガスでは、春芽収穫期（3月～5月）にはナメクジ類はトラップに誘殺されないが、立茎後の夏芽収穫期（6月～10月）のうち、特に梅雨期（6～7月）に多発し、被害が問題となる（図5）。
 - (4) アスパラガスでは、燐酸第二鉄剤による防除後、2週間程度はナメクジ類のトラップへの誘殺が減少するが、その後、外部から侵入するために再び増加する（図6）。
 - (5) イチゴの施設では、ナメクジ類の誘殺は9月から認められるが、太陽熱消毒を実施した施設では認められない。また、ナメキール等（メタアルデヒド粒剤（1g/m²））による防除後は施設内での誘殺は認められない（表1、表2）。
- 2 調査の手順
 - (1) プラスチック容器の横面に直径2 cm程度の穴を2個か所開け、ナメキール等（メタアルデヒド粒剤）を1 g入れ、ふたをする。
 - (2) トラップは、五寸釘等を用いて畝の上（イチゴの高設栽培施設では高設下の地上）に、施設あたり3～5か所設置する。
 - (3) ナメキール等（メタアルデヒド粒剤）は2週間程度で交換する。
- 3 判定および結果の活用方法
 - (1) トラップにナメクジ類の誘殺が認められた場合は、農作物に登録のあるスラゴ等（燐酸第二鉄粒剤（1～5 g/m²））を施設内及び周辺に施用する。
 - (2) 薬剤施用後もトラップに誘殺される場合は、連続して防除する。

成果の活用面・利用上の留意事項

- 1 ナメクジ類は雑草の間や、石やマルチの下など、湿度の高い場所を好んで生息し、高温及び低温時には活動が低下するため、トラップ調査は夏と冬を避ける。
- 2 ナメクジの発生が多い場合は、薬剤が不足して防除効果が低下する場合があるため、十分な量を施用する。
- 3 ほ場周辺の雑草地等に生息するナメクジ類は、マイキラー®（メタアルデヒド水和剤）を散布する。本剤は作物に直接かからないよう、また、ドリフトに注意する。
- 4 ナメキール等（メタアルデヒド粒剤）のほ場内への施用は、農作物に登録のあるもの

を使用する。

具体的なデータ



図1 トラップ



図2 設置状況 (アスパラガス)



図3 ノハラナメクジ



図4 チャコウラナメクジ

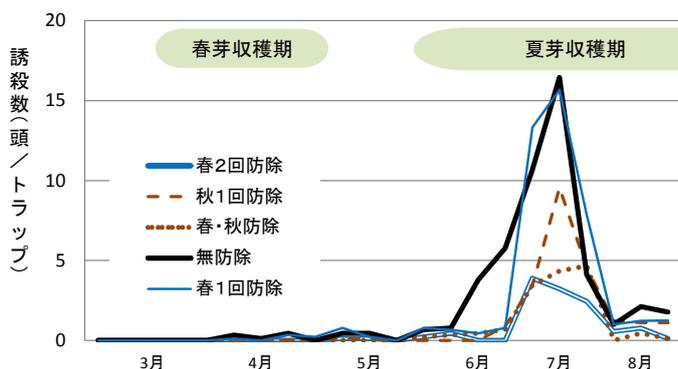


図5 アスパラガスの収穫期とナメクジ類誘殺数の推移

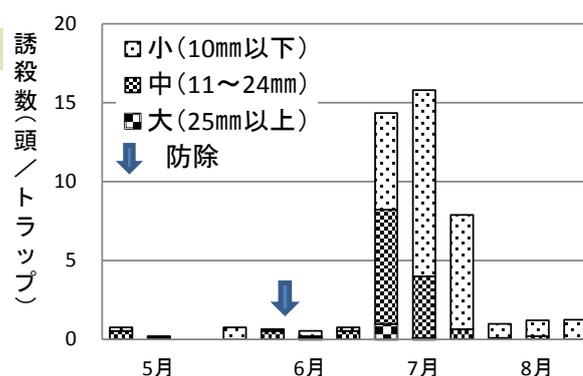


図6 アスパラガス栽培施設におけるナメクジ類誘殺数の推移 (6月上旬に燐酸第二鉄剤で防除)

表1 イチゴ栽培施設におけるナメクジ誘殺数の推移(下関市豊北町)

	9/13	9/22	9/28	10/6	10/12	10/20	11/10	11/24	12/10	12/22	1/6	1/19	3/10
太陽熱消毒区(高設上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
太陽熱消毒区(地面)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
育苗兼用施設(高設上)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
育苗兼用施設(地面)	2.4	1.2	1.4	0.6	1.4	1.0	0	0	0	0	0	0	0
施設外	0	0	0	0	0.3	0	0.8	1.5	0	0	0	0	0

* 10/20にメタルデヒド粒剤を施用

表2 イチゴ栽培施設におけるナメクジ誘殺数の推移(山口市大内)

	10/5	10/13	10/21	11/9	12/1	12/9	1/5	1/19	3/7	4/7	6/20	11/8
防除区高設上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
防除区地上	0.8	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0	—	—
無防除区高設上	—	—	—	—	0.2	0.4	0	0	0	1.4	0.2	1.0
無防除区地上	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	—	—
施設外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—

* 10/21にメタルデヒド粒剤を施用

関連文献等

平成26年度農林総セ試験研究発表会発表要旨：P19

研究年度	平成23年～26年
研究課題名	I P M実践指標の策定 (イチゴ及びアスパラガス)
担 当	農業技術部資源循環研究室 溝部信二・岡崎仁・吉原茂昭 (現 農業振興課)